

令和 6 年度病害虫発生予察予報第 8 号（令和 6 年 11 月）

令和 6 年 11 月 5 日
高知県病害虫防除所

《予報の概要》

作物名	病害虫名	予想発生量※
野菜類	ハスモンヨトウ	<u>多(県下全域)</u>
促成キュウリ	べと病 うどんこ病 黄化えそ病 退緑黄化病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	やや少(県下全域) 平年並(西)、やや少(中央、中西) <u>多(西)、やや多(中西)</u> 、やや少(中央) <u>やや多(中央)</u> 、やや少(中西、西) <u>多(西)</u> 、平年並(中西)、少(中央) <u>多(西)</u> 、平年並(中央、中西)
促成ナス	うどんこ病 灰色かび病 黒枯病 すすかび病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	やや少(県下全域) <u>多(西)</u> 、やや少(東、中央) <u>多(西)</u> 、やや少(東、中央) <u>多(西)</u> 、やや少(東、中央) 平年並(西)、やや少(東)、少(中央) <u>やや多(県下全域)</u>
促成ピーマン・シシトウ	うどんこ病 黒枯病 斑点病 ミナミキイロアザミウマ チャノキイロアザミウマ タバココナジラミ	やや少(県下全域) <u>多(中西)</u> 、やや多(中央)、やや少(東) <u>多(中央)</u> 、やや少(東、中西) <u>やや多(中央)</u> 、やや少(中西)、少(東) <u>多(東、中央)</u> 、やや少(中西) <u>やや多(県下全域)</u>
促成トマト	葉かび病 すすかび病 黄化葉巻病 タバココナジラミ	やや少(中央) <u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u>

※ ()内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部
県東部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村
県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、
吾川郡いの町および高岡郡日高村
県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く)町村および吾川郡仁淀川町
県西部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村
なお、野菜は「土佐市」を中央部に入れています。

I 気象予報(高松地方気象台10月31日発表)

11月2日から12月1日までの天候見通し

＜予想される向こう1か月の天候＞

向こう1か月の気温は、寒気の影響を受けにくいいため高いでしょう。特に、期間の前半は、気温がかなり高くなる可能性があります。1週目の後半頃には寒気の影響を受ける時期があるでしょう。期間のはじめを中心に低気圧や前線の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は高い確率80%、降水量は多い確率50%です。

週別の気温は、1週目は高い確率60%です。2週目は、高い確率70%です。3～4週目は高い確率60%です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)		平年並	高い(多い)
1か月	四国地方	気温	10	10	80	
		降水量	20		30	50
		日照時間	30		40	30

＜気温経過の各階級の確率(%)＞

期間	対象地域	低い		平年並	高い
1週目	四国地方	10	30	60	
2週目		10	20	70	
3～4週目		10	30	60	

＜予報の対象期間＞

1ヶ月：11月2日(土)～12月1日(日)

1週目：11月2日(土)～11月8日(金)

2週目：11月9日(土)～11月15日(金)

3～4週目：11月16日(土)～11月29日(金)

II 病虫害発生予想

1 野菜類の病虫害

1) ハスモンヨトウ

予 想 発生量：多(県下全域)

根 拠

- (1) 県内4地点に設置したフェロモントラップにおける10月第5、第6半旬の誘殺数は、中央部、中西部、西部で平年を大きく上回った。
- (2) 10月の調査では、施設果菜類や露地青ネギなどにおいて、県下全域で本虫による食害痕や卵塊、幼虫の寄生が確認されている。
- (3) 例年、気温の低下とともに野外密度も低下する時期であるが、気温が平年よりも高いと予想されていることから、野外からハウス内への飛び込みが続き、現在の発生が継続すると考えられる。

対 策

- (1) 施設栽培では、ハウスサイドや天窓に防虫ネットの被覆を行うなど成虫の侵入防

- 止に努める。また、交信かく乱剤(合成フェロモン剤)の利用も有効である。
- (2) 卵塊を除去し、幼虫は見つけ次第捕殺する。なお、卵塊は植物体だけではなく防虫ネット等にも産み付けられるので注意する。
- (3) 老齢幼虫になると食害量が多くなるとともに薬剤の防除効果が低下するため、若齢期の防除に努める。また、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統の薬剤の連用を避ける。

2 促成キュウリの病害虫

1) ペト病

予 想 発生量：やや少(県下全域)

根 拠

- (1) 10月の調査では、県中央部で発生が見られ、発生面積は平年より少なく、発病程度は平年より高かった。
- (2) 11月は例年発生が増加する時期であること、降水量が多いと予想されていることから、発生が増加し、未発生地域においても発生が見られるようになると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。

2) うどんこ病

予 想 発生量：平年並(西部)、やや少(中央部、中西部)

根 拠

- (1) 10月の調査では、県中央部と西部で発生が見られ、発生面積は西部で平年よりやや少なく、中央部で少なかった。発病程度は両地域とも平年より低かった。
- (2) 11月は例年発生が増加する時期であることや、気温が平年より高いと予想されていることから、発生は増加し、未発生地域においても発生が見られるようになると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。薬剤によっては、散布後も病斑の見た目が変化せず防除効果がわかりづらい場合があるため、防除後に展開した葉の発病の有無で防除効果を判断する。

3) 黄化えそ病

予 想 発生量：多(西部)、やや多(中西部)、やや少(中央部)

根 拠

- (1) 10月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は西部で平年より多く、県中西部で平年並、中央部で少なかった。発病程度は西部で平年より高く、その他の地域は平年並であった。
- (2) 例年、11月には既感染株の発症により発生が増加するうえ、気温は平年より高いと予想されていることから、本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマの野外からハウス内への飛び込みが続き、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を低密度時に徹底する。また、罹病株は早期に除去し、埋設するなどの処分を行う。

4) 退緑黄化病

予 想 発生量：やや多(中央部)、やや少(中西部、西部)

根 拠

- (1) 10月の調査では、県中央部で発生が見られ、発生面積、発病程度ともに平年並であった。
- (2) 例年、11月には既感染株の発症により発生が増加するうえ、気温は平年より高いと予想されていることから、本病の媒介虫であるタバココナジラミの野外からハウス内への飛び込みが続き、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を低密度時に徹底する。

5) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：多(西部)、平年並(中西部)、少(中央部)

根 拠

- (1) 10月の調査では、県中西部、西部で発生が見られ、発生面積は西部で平年より多く、中西部で平年並であった。発生程度は両地域とも平年並であった。
- (2) 11月の気温は平年より高いと予想されていることから、野外からハウス内への飛び込みが継続し、現在の発生が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。薬剤防除は上位葉を中心に実施する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、開口部のネット被覆(0.4mm目以下)や天敵の利用など、化学合成農薬以外の防除方法も取り入れる。

6) タバココナジラミ

予 想 発生量：多(西部)、平年並(中央部、中西部)

根 拠

- (1) 10月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は西部で平年より多く、中央部、中西部で平年並であった。発生程度はいずれの地域とも平年以下であった。
- (2) 11月の気温は平年より高いと予想されていることから、野外からハウス内への飛び込みが継続し、現在の発生が続くと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、開口部のネット被覆(0.4mm目以下)や天敵の利用など、化学合成農薬以外の防除方法も取り入れる。

3 促成ナスの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：やや少(県下全域)

根 拠

- (1) 10月の調査では、県東部、中央部で発生が見られ、両地域とも平年と比べ発生面積は少なく、発病程度は低かった。
- (2) 11月は例年発生が増加する時期であることや、気温が平年より高いと予想されていることから、発生は増加し、未発生地域においても発生が見られるようになると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 灰色かび病

予 想 発生量：多(西部)、やや少(東部、中央部)

根 拠

- (1) 10月の調査では、県西部で発生が見られ、平年と比べ発生面積は多く、発病程度は高かった。
- (2) 11月は気温が高く降水量が多いと予想されており、加温機が稼働せずにハウス内湿度が上昇すると考えられることから発生が増加し、未発生地域においても発生が見られるようになると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。

3) 黒枯病

予 想 発生量：多(西部)、やや少(東部、中央部)

根 拠

- (1) 10月の調査では、県西部で発生が見られ、平年と比べ発生面積は多く、発病程度は高かった。
- (2) 11月は気温が高く降水量が多いと予想されていることから、発生が増加し、未発生地域においても発生が見られるようになると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) すすかび病

予 想 発生量：多(西部)、やや少(東部、中央部)

根 拠

- (1) 10月の調査では、県西部で発生が見られ、平年と比べ発生面積は多く、発病程度は高かった。
- (2) 11月は気温が高く降水量が多いと予想されていることから、発生が増加し、未発生地域においても発生が見られるようになると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

5) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：平年並(西部)、やや少(東部)、少(中央部)

根 拠

- (1) 10月の調査では、県西部と東部で発生が見られ、発生面積は西部で平年よりやや多く、東部で平年並であった。発生程度は東部で平年より高く、西部で低かった。
- (2) 11月の気温は平年より高いと予想されており、野外からハウス内への飛び込みが継続すると考えられるが、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着し始めているため、減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。
- (2) 天敵の定着が遅れているほ場では追加放飼を検討する。

6) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや多(県下全域)

根 抛

- (1) 10月の調査では、県下全域で発生が見られ、いずれの地域も発生面積は平年より多かった。発生程度は東部、西部で平年より高く、中央部でやや低かった。
- (2) 11月の気温は平年より高いと予想されており、野外からハウス内への飛び込みが継続すると考えられるが、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着し始めているため、減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。
- (2) 天敵の定着が遅れているほ場では追加放飼を検討する。

4 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：やや少(県下全域)

根 抛

- (1) 10月の調査では発生は見られなかった。
- (2) 11月は例年発生が増加する時期であることや、気温が平年より高いと予想されていることから、発生が見られるようになると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 黒枯病

予 想 発生量：多(中西部)、やや多(中央部)、やや少(東部)

根 抛

- (1) 10月の巡回調査では、県中央部、中西部で発生が見られ、発生面積は中西部で平年より多く、中央部で平年並であった。発病程度は中西部で平年より高く、中央部で平年並であった。
- (2) 11月は気温が高く降水量が多いと予想されていることから、発生が増加し、未発地域においても発生が見られるようになると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) 斑点病

予 想 発生量：多(中央部)、やや少(東部、中西部)

根 抛

- (1) 10月の巡回調査では、県中央部で発生が見られ、発生面積は平年より多く、発病程度は平年並であった。
- (2) 11月は気温が高く降水量が多いと予想されていることから、発生が増加し、未発地域においても発生が見られるようになると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや多(中央部)、やや少(中西部)、少(東部)

根 拠

- (1) 10月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は中央部で平年より多く、中西部で平年並、東部で少なかった。発生程度は中央部で平年よりも高く、東部、中西部で低かった。
- (2) 11月の気温は平年より高いと予想されており、野外からハウス内への飛び込みが継続すると考えられるが、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着し始めているため、減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。
- (2) 天敵の定着が遅れているほ場では追加放飼を検討する。

5) チャノキイロアザミウマ

予 想 発生量：多(東部、中央部)、少(中西部)

根 拠

- (1) 10月の調査では、県東部と中央部で発生が見られ、発生面積は両地域とも平年より多かった。発生程度は中央部で平年より高く、東部で低かった。
- (2) 11月の気温は平年より高いと予想されており、野外からハウス内への飛び込みが継続すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時から選択性殺虫剤による防除を徹底する。
- (2) 果樹類や樹木類に広く寄生することから、施設内にこれらの植物を持ち込まないようにする。

6) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや多(県下全域)

根 拠

- (1) 10月の調査では、県下全域で発生が見られ、いずれの地域も平年と比べて発生面積は多く、発生程度は平年以下であった。
- (2) 11月の気温は平年より高いと予想されており、野外からハウス内への飛び込みが継続すると考えられるが、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着し始めているため、減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。
- (2) 天敵の定着が遅れているほ場では追加放飼を検討する。

5 促成トマトの病害虫

1) 葉かび病

予 想 発生量：やや少(中央部)

根 拠

- (1) 10月の調査では、平年と比べ発生面積は少なく、発病程度は低かった。
- (2) 11月は気温が高く降水量が多いと予想されていることから、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

2)すすかび病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 10月の調査では、平年と比べ発生面積はやや多く、発病程度は低かった。
- (2) 11月は気温が高く降水量が多いと予想されていることから、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3)黄化葉巻病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 10月の調査では、平年と比べ発生面積はやや多く、発病程度は平年並であった。
- (2) 例年、11月に発生の増加が見られるうえ、気温は平年より高いと予想されていることから、本病の媒介虫であるタバココナジラミの野外からハウス内への飛び込みが続き、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、罹病株はほ場外に持ち出し、埋設するなどして処分する。

4)タバココナジラミ

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 10月の調査では、平年と比べ発生面積は多く、発病程度は高かった。
- (2) 11月の気温は平年より高いと予想されていることから、野外からハウス内への飛び込みが継続し、現在の発生が続くと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。また、本虫は黄化葉巻病を媒介するので注意する。
- (2) 防除効果が高い薬剤が少ないため、開口部のネット被覆(0.4mm目以下)天敵の利用など、他の防除方法も組み入れる。

農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病虫害防除所ホームページ(こうち農業ネット) <https://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ①病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報
- ②病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報
- ③病虫害発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病虫害 etc.

高知県農薬情報システム <https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/haishinfile/list/kochi>

- ①農薬の検索
- ②農薬データの一覧
- ③配信ファイルの閲覧(農薬安全使用、病虫害防除指針 etc.)